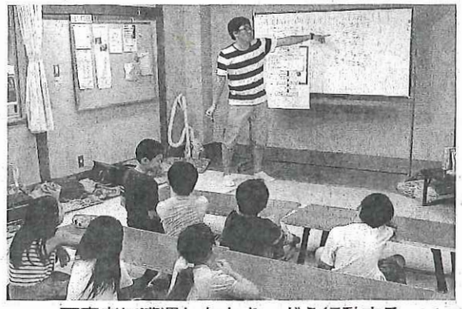
子供の身守る 放課後授業

宇大生、児童クラブで



不審者に遭遇したとき、どう行動するかを考えた「アフタースクール・寺子屋」（3日午後、宇都宮市元今泉で）

宇都宮の強盗傷害事件受け

先月、宇都宮市の路上で帰宅途中の女子高生が頭を殴られ頭蓋骨陥没の大けがを負う強盗傷害事件が発生したことを受け、現場近くで小学生を預かる放課後児童クラブ「アフタースクール・寺子屋」は、暴漢に襲われた際の対応を学んでもらう授業を始めた。

同クラブは、宇都宮大の学生約10人が同市まちづくりセンター「まちぴあ」で運営している。事件現場から約500メートルしか離れていなかったことから、「子供たちの身の安全を守るためにできることは何か」と、防犯対策マニュアルなどを参考にしながら勉強会やリハーサルを重ね、授業を作り上げた。

3日の授業では、マスクとサングラス姿で不審者に扮した学生がバットを持って教室に乱入。参加していた小学1～5年生計11人は、教室の隅へ逃げたりぼう然と固まって動けなくなったりした。

その後、講師で同大1年の大野智成さん(19)が「本当の不審者に遭ったらどう行動するべきかな？」と問いかけると、児童たちから「逃げる」「防犯ブザーを鳴らす」「大声で助けを呼ぶ」などの意見が出され、それを対応表にまとめていった。授業終了間際に再度、不審者役の学生が現れると、子供たちは大声で叫ぶなどして教わったことを実践していた。

代表で同大3年の飯塚みなみさん(20)は「危険に遭遇した際の子供たちの反応を把握することができた。今後も随時行っていきたい」と話していた。

東芝取引先 県内424社

中小83％「今後も注視必要」

不適切会計問題を抱える東芝とその主要グループ企業の取引先が県内で424社にのぼることが帝国データバンク宇都宮支店のまとめで分かった。

県内には東芝本体の大型拠点はないが、大田原市に子会社の東芝メディカルシステムズの本社がある。同支店の調査によると、取引先が多いのは市町別で宇都宮市が144社で最も多く、大田原市の41社、那須塩原市の35社と続いた。取引先の数は全国の都道府県で13位だった。

東芝が7日発表した今年3月期決算では、連結税引き後利益が378億円の赤字に転落した。県内の取引先は、売上高が10億円未満の中小企業が83％を占め、同支店は「東芝の今後の動向次第では、業績を左右されかねない企業も出てくる。今後も注視していく必要がある」としている。

健康度 貸借対照表に

協会けんぽがシート

県内の中小企業従業員や家族約50万人が加入する全国健康保険協会（協会けんぽ）栃木支部が「健康格付型バランスシート」を作成し、導入が広がっている。従業員の健康診断受診率や喫煙者率などをポイント化し、貸借対照表で示すことで、健康度が一目で分かる。同支部が全国に先駆けて取り組みを始め、今年4月に商標登録した。成果次第では、来年度に全国展開することも視野に入れている。

シートは、従業員の健康の維持・増進が業績向上につながるとして、健康づくりに積極的に取り組む「健康経営」の普及・定着が狙い。政府が進める「データヘルス」計画に基づき、同支部が各事業所から提供を受けた健康診断やレセプト（診療報酬明細書）の情報の分析結果をまとめたもの。

特徴は、事業所の従業員全体の健康に関する現状が「資産の部」に、努力目標が「負債の部」に、それぞれ表され、改善された分が「純資産」のポイントとなる。

例えば、従業員の健診受診率が上がれば、「資産」が増えるが、メタボと診断された人が増えると「負債」が増える。一方、メタボが改善すれば「負債」は減る。また、医療費は通院なら「流動負債」、入院なら「固定負債」に分類される。

メタボ健診の結果、受ける「特定保健指導」については、初めて受けた従業員の割合は「繰延資産」に、改善者の割合は「固定資産」に、それぞれ表される。対象者や中断者などは「流動負債」に分類される。

資産から負債を差し引いたものが「純資産」となり、総資産に占める割合に応じて、最上級のSからDまで5段階で格付けされる。支部は各事業所がSとなるよう指導する。

同支部は今年度内に700社での普及を目指しており、栗田昭治支部長は「少子高齢化で若い社員の雇用が困難になる。労働寿命を延ばすためにも経営者が社員全体の健康状態を把握することが必要で、シートを活用してもらいたい」と話している。

「健康投資に力を」

県内100社導入意向

県内では既に約100社が導入または導入の意向を示している。

精密部品製造の大古精機（さくら市）では8月下旬、同支部の保健師らが2012、13年度のデータを使ったシートを見せ、改善点をアドバイスした。いずれの年度も格付けは上から2番目のAだったが、保健師は「業態平均と比べると喫煙者の率が高いので改善した方が望ましい」と指摘した。

同社の社員は60人。平均年齢は約45歳で、今後、社員の高齢化は進む見込みという。大古秀子社長は「社員ごとの健康診断の結果は把握しているが、社全体の状況が分からなかった。シートを他の経営陣にも見せて意識を共有し、社員の健康投資に力を入れていきたい」と話していた。

企業の健康バランスシート

健康資産の部

No.	項目	健康ポイント
健康流動資産		830
1	健診受診率	380
1-1	生活習慣病予防健診	380
1-2	事業者健診(データ提供)	―
1-3	特定健診	0
2	血圧の正常者率	70
3	血糖の正常者率	70
4	脂質の正常者率	70
5	適正体重者の率	70
6	非喫煙者の率	170
健康固定資産		100
7	特定保健指導	100
7-1	非対象者の率	60
7-2	改善者の率	40
健康繰延資産		90
8	特定保健指導	90
8-1	開始者の率	90
健康資産合計		1020

健康負債の部

No.	項目	健康ポイント
健康流動負債		205
1	特定保健指導	55
1-1	対象者の率	35
1-2	未開始者の率	20
1-3	中断者の率	0
2	メタボ該当者の率	20
3	非適正体重者の率	30
4	入院外医療費	50
5	歯科医療費	50
健康固定負債		440
6	健診未受診率	210
6-1	生活習慣病予防健診	210
7	医療機関未受診者率	80
7-1	高血圧	30
7-2	高血糖	20
7-3	高脂質	30
8	喫煙者の率	30
9	入院医療費	120
健康負債合計		645
健康純資産		375

※協会けんぽ栃木支部提供

社員の健診受診率や喫煙者率 ポイント化

健康格付型バランスシートの説明を受ける大古社長（右）（8月28日、大古精機で）

次男に熱湯で傷害罪

夫婦 懲役2年求刑

小学1年の次男に熱湯をかけてけがをさせたとして、傷害罪に問われた真岡市上高間木、無職間山光樹(32)、妻の無職真由美(39)両被告の公判が7日、宇都宮地裁（水上周裁判官）であった。検察側は懲役2年を求刑、弁護側は執行猶予付きの判決を求め、結審した。判決は28日。

検察側は論告で、次男の言動や体にあった複数のけがから虐待が日常的に行われていたと指摘。「無抵抗で非力な児童への一方的な暴行で悪質。児童虐待が増加しており、同種の犯罪を防ぐためにも厳しい処罰が必要」と主張した。

一方、弁護側は最終弁論で、「憎しみからくる暴力ではない。許されることではないが、本人たちなりにしつけとして考えた結果だった」と訴えた。

起訴状によると、両被告は5月14日頃、自宅で養子である次男の背中と胸に熱湯をかけ、全治約3週間のやけどを負わせたとされる。

本会議場で母佳子さん（手前左）の伴奏で歌う荒川美捺さん（7日）

本会議場に友好の調べ

9月定例会が開須塩原市議会本会オーストリアとのサートが開かれた・リンツ市と姉妹定しており、那須宇都宮短大音楽科さん(19)が同国のーベルトの「子守った。

明治時代に那須力を注いだ元外相子孫がリンツ市に